



◇ 今回は、鈴木友貴さん（和歌山大学観光学部観光学科）のレポートです！

私は、現在、和歌山大学の観光学部観光学科に在籍をしており、今年の春から2年目を迎えることとなります。現段階で将来、具体的に何を仕事にするかということはまだ決まっていませんが、目標を持ち大学に入学し、それを達成するために様々なことに取り組んでいます。

大学は興味のあることを、楽しんで研究する場所だと私は思います。いま現在、私にとって和歌山大学の観光学部はそういう所です。関高校の在校生の皆様には、是非自分の興味のあることを大学で研究してほしいです。この貴重な機会を頂き、私が高校生活で何を学び、その後大学でどう過ごしているのかを伝えることで、好きなことを学ぶ大切さについて、知っていただけたら光栄です。

国際的な視点を養った高校時代 ～陸上部、コスタリカ留学～

高校に入学してから、特に真剣に取り組んだのは高校から始めた部活動の陸上競技です。東海大会出場を目指して、短い時間の中で何が出来るかを考え、集中して練習に参加しました。

先輩方の支えによって、1年生の冬にリレーで初めて東海大会出場を経験しました。何でも人一倍努力することや、まわりに流されず自分なりのアクションを起こすことで、急成長できるということを学びました。

高校2年生の時には、1年間の休学を選択し、交換留学に行くことを決断しました。第3言語としてスペイン語を学びたい、周りの誰もが知らないような異国の文化を感じたい、大自然の中で暮らしたい、この3つの理由で中米のコスタリカに渡航しました。周りの環境が一変したのが、何か自分には清々しく感じ、英語も通じない場所での生活を、逆に楽しみ勉強に励むことができました。

日本語に全く触れないような環境を徹底して、ホストファミリーと友達と過ごす時間を大切にすることで、特にスペイン語でのトーク力は飛躍的に伸ばすことができました。また、現地の



フェアウェルパーティーでホストファミリーと撮影した写真

人のライフスタイルに合わせて動くことで、観光とは違い生活の面など深い文化まで実感できました。高校生であったこともあり、異文化をすんなり受け入れることができたことにより、考え方が広がり視野が広がりました。

帰国後、関高校に戻ると、関高校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）に登録されていたため、その環境と養った国際的な視点を生かし、スーパーハイスクール（SSS）の学生が集まって討論する会議に参加させていただきました。学生が地域のためにできることは何かをアクティブラーニングにより考え、特に自分はインバウンドの呼び込みの方法について考える良い機会となりました。

国公立大学で唯一の観光学部をもつ和歌山大学

みなさんは観光学部をご存知ですか。まだ日本ではマイナーな学問かもしれませんが、世界では広く認知されています。東京オリンピックも迫る中、日本に世界中から多くの観光客が訪れているのはみなさんご存知だと思います。年々訪日客は増え続けているのと同時に、世界でも国境を越えて観光に行く人が急増していて、今やどの国にとっても観光というのが重要な産業として位置付けられています。

観光は狭い学問に見えますが、実は一番と言っているほど幅広い学問であり、いろいろな分野と結びついています。例えば、経済、経営、地域、地理、農業、文化、法律、言語、映像、宇宙までもが観光に関わっています。和歌山大学では実際にその全てを観光という視点も加えて学ぶことができます。そのため、研究内容は学生によってまるで違い、多岐にわたります。



和歌山大学 観光学部棟



スペインのガリシア州の派遣団の皆さんと

私がそんな観光学部に入学した理由は、観光が私の趣味であるからです。家族や友達などとの旅行のときは、行く前からどこに行くかなど計画したり、想像してみたり、また旅行中はいつもとは違う非日常を体験でき、濃い一日を過ごすことができます。一人旅のときは、いろいろな人との出会いがあったり、発見があったり、時には苦難を乗り越えたり、旅が自分を成

そんな面白いものは観光だけだと思い、私は国立大学で唯一観光学部をもつ和歌山大学に進学をしました。

入学して一年が経ちましたが、自分の好きなことだからこそ、意欲的に研究をすることができています。また国立大学では全国でひとつということもあり、北海道から沖縄までの各地から、意欲的で強い意志をもつ学生が集まっています。そのため、周りから良い刺激を受けることができます。この学部の特徴として自由な時間が多いので、その分、それぞれが自分自身で行動できるかが重要です。旅に出る人もいれば、国内限らずインターンシップに行く人や、起業する人、新しい団体を作る人など多様です。その中で、私も負けずに日々取り組んでいます。

現在、自分が所属している団体の中で特に力を入れているのが、UNWTO と PATA 学生支部です。UNWTO とはスペインに本部のある国連世界観光機関のことです。今年の1月からはその学生支部の代表として活動しています。去年は、UNWTO による世界観光倫理憲章の内容を世界の子どもたちにも知ってもらうための試みや、UNWTO の冊子を翻訳して日本語版を作成したりしました。現在は世界観光倫理憲章の E-learning を作成する取り組みを始めています。

PATA は太平洋アジア観光協会という団体です。タイのバンコクに本部があり、太平洋・アジア地域への観光誘致及び域内交流を目的としている非営利団体で、観光系の大企業や小中企業、他団体など約 22,000 のメンバーが加盟しています。世界に 18 の学生支部があり、そのひとつが和歌山大学です。PATA の活動目的を支え、既成概念にとらわれず独自の活動を行っています。

私は企画班に所属しており、自由な発想で色々なことに挑戦する機会をいただいています。また、今までにスペイン・ガリシア州の派遣団の方々との交流を行い、彼らに高野山の案内をしたり、中国の大学生の派遣団の方々を大学に迎え、ディスカッションやゲームなどを企画し交流を深めたりしました。次は5月に韓国で行われるユースフォーラムに向けて取り組みを始めています。

ふたつの団体を述べましたが、それ以外にも、自主的にスペイン語のセミナーを週1で行ったり、1回生の仲間と、観光についての学びをシェアする場として観光11期生会を行ったりなどしています。観光学部の授業の一環として、地域や海外へのインターンシップもあり、多くの学生が1年生から参加しています。私は、有田川町の沼地区で棚田から地域発信をする活動を行う、棚田ふあむに参加していて、地域の食材を農家の方と収穫して、その食材のブランド化や特産品の開発を目指して活動をしています。インターンシップでは現場に赴き行動するので、多くの体験や経験が得られます。

今年の2月の下旬には大学のプログラムで、タイに研修に行きます。アジアの国は日本以外、踏み入れたことが無いので、どのような異文化に出会え、新しい発見が出来るかとても楽しみです。

この観光学部に来たおかげで、私は関高校の卒業生の誰よりも1年も経たない短い期間の中で、自主的な学びを行えた



自信があります。その大きな理由として、自分の興味のある、好きなことを研究できる大学を選択したからだと考えます。いまや国公立大学でも少し足を延ばせば、色々な学問が学べます。この文章を読んでもくれた方が、大学選択では妥協せず、自分の進みたい道に進もうと少しでも思っただけなら幸せです。ありがとうございました。